

# TAKE ME TO THE RIVER

PLAY × PRAY  
Re-Incarnation  
Project/VEXATION SOUL

Y+T MOCA

2026.0711<sub>sat</sub> — 0712<sub>sun</sub>

10:00~18:00

美術館内 1F オープンスタジオ  
会場造営解体のパフォーマンス

15:00~15:25

コアタイム

25 分間のステージ

2018 「cut-up」(東京)  
「Mish-Mash」(大阪)

2019 「World War X」(名古屋)  
「RIP ON 2D」(名古屋)

2020 「ICU/III Cut Under Skin」(神戸 / 中止)

2021 「WORK IN PROGRESS」(横浜)

2022 「RIPRELODED」(大阪)

2024 「Entartete-Kunst」  
「NO CONNECT」(大阪)

2026 「SOFT MACHINE」(大阪)

2026.5.23 SAT - 8.30 SUN 「横尾忠則 連画の河」開催中

※ イスをご用意しますが、原則移動しながらの  
観覧となります  
※ ご希望の方は、随時パフォーマンスへご参加  
ください  
※ パフォーマンスの写真・動画撮影及びSNSへの  
アップロード歓迎

〒657-0837  
兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30  
TEL: 078-855-5607 (総合案内)  
<https://ytmoca.jp>

Yokoo Tadanori  
Museum of  
Contemporary Art  
Y+T  
MOCA  
横尾忠則現代美術館

# 川へ連れて 行ってくれ おれを 洗い清めて くれ

AI Green/1974

I wanna know  
Take me to the river  
I wanna know  
Want you to dip me in  
the water

NOTE 1  
生産と消費、その構造的なループからの脱却。  
無記名の生産と器用仕事、特定の職能に固定  
されない水平的な協働への参加。交換から  
贈与への移行。生命標準時現在23時59分。  
パフォーマンス・ゴルフオーズ RIP

NOTE 2  
2018 「cut-up」(東京)  
「Mish-Mash」(大阪)  
2019 「World War X」(名古屋)  
「RIP ON 2D」(名古屋)  
2020 「ICU/III Cut Under Skin」(神戸 / 中止)  
2021 「WORK IN PROGRESS」(横浜)  
2022 「RIPRELODED」(大阪)  
2024 「Entartete Kunst」  
「NO CONNECT」(大阪)  
2026 「SOFT MACHINE」(大阪)

NOTE 3  
RIP=RE INCARNATION PROJECT  
2017年10月、SNS上に起動。表現形態に  
応じ1名から30名超の人員で構成。  
平均年齢64歳。廃棄された人体、経歴、  
関係性、表現の初期化・再起動を掲揚する。

NOTE 4  
VEXATION SOUL  
大阪のハードコアダブオーケストラ  
VermilionSands のメンバーによるフリー  
セッションユニット。血と油、ラジオ電波、  
双生児、洪水をテーマにした妄想ダブ  
バンド。RIP座付きオーケストラ。

☆ポルナレフ/Mad Words  
☆マリ/Voice, Trumpet  
☆シバ/Guitar, Noise  
☆イマ/Drums, Saw

NOTE 5  
目撃しよう、混乱と陶酔の風景を  
波止場通信社社主 竹内明久

私は目撃した。ビルの地下駐輪場。  
天井は低く、水道口から水が流れる音だけ  
がする。演奏が始まる。ドラムとトラン  
ペットが鳴り響き、笛の音が唐突に闇を  
突き刺す。ノイズに近い不協和音が奏でる  
フリージャズをバックに男がマイクで  
詩を叫んでいる。いやアジっている。  
群れを成したスーツを着た男たちが奇妙に  
笑っている。その前を鼻や口に管を通した  
車椅子の男が通る。男たちが床に這い  
つくばる。演者はつねに無言だ。  
やがて巨大な薄いフィルムが現れ、観客席を  
覆うように移動する。フィルムが光に怪しく  
揺れる。暗転。(「W2X」のシーンより)  
常に観客に混乱と陶酔を与えてきた  
RIPが、今回の横尾忠則現代美術館で  
どんな風景を見せてくれるのか楽しみで  
ならない。

NOTE 6  
「演劇の終わり」とRIP ~バトルビーと  
カントール」  
脱アート研究 海上宏美

『バトルビー』はアメリカの小説家  
メルヴィルの短編小説。バトルビーは  
事務員として勤めているが「できれば  
しないほうがいいのです」と言って仕事を  
やらない。私は仕事だけでなく演劇も芸術  
アートも終わっていると感じているので  
バトルビーに倣い「できればしない  
ほうがいい」と思っている。カントールは  
ポーランドの美術家演出家。自分の舞台に  
常にいるので舞台指揮者と呼ばれており  
『死の演劇』を作っていた。山下義彦も  
常に舞台にいて指揮をしている。ここが  
似ている。演出は隠れていなくていい。  
RIPには何かの終わりが感じられる。  
RIPは終わっているところから始めている  
かもしれない。

NOTE 7  
PRAYER  
長谷剛士:2022 荒木 董:2025  
PLAYER  
フルカワタカシ 永澤こうじ 若浦宗八  
茨木童子 森岡陸雄 井戸 隆  
玉置 稔 津曲純浩 喜多不二男  
篠田エイジ 柘下 亮 真嶋淳太  
山下義彦 山下明彦 山本正吾  
安倍火韻 藤田佳昭 齋藤秀雄  
草壁 豊 細見大悟 増子俊治  
相澤柊斗 玉川裕士 チョウヘンソン  
山下久美子 小室 恵 葱山紫蘇子  
カヨ 他 (予定)

NOTE 8  
美術館 1F オープンスタジオ  
縦横約12m×15m、  
高さ4m 面積180㎡ 容積720㎡

NOTE 9  
机、椅子、台車、作業台、清掃用具、その他。  
既設壁面、床保護の為にポリフィルム、  
クッション材、マスキングテープ、梱包用  
テープ等々。大小ポリ袋、レジ袋、梱包用  
ロープ、輪ゴム、洗濯バサミ、その他  
日用品を使用。

NOTE 10  
4/24 Entartete Kunst  
Studio T-BONE 有本 友美

大阪水都木津川沿いに佇むアジールの存在  
Studio T-BONE。パンクバンドの打音に誘われ、  
日本のあちらこちらからRIPの老優たちが  
湧き出でた。スタジオの Horizont まで  
貫かれた足場の花道を、彼らは無表情の  
まま練り歩く。退廃芸術の片鱗の小さな  
捨得物を棒先に捧げ持つ勇姿は愛おしい。  
それは(荒木董の)生前葬カリバースか。  
ゆるぎなき反骨と全てを包括する古少年の  
肉体よ。  
圧巻は、袋小路で膨らませた巨大風船を  
観客の待つスタジオの内空間に挿入する  
という無謀な行為だ。具体のムーブメントを  
想起したのは私だけだろうか。  
RIPの非日常の媚薬の虜になった者たちは、  
サブリミナル的にその光景を何度も反芻する  
ことになるだろう。Studio T-BONEに  
いたっては、ピナコテカになるべく再びの  
遭遇を祈るばかりだ。

NOTE 11  
この計画は演劇を装うが、文学を再生しない。  
主題が繰返されるが、ダンスには汚染されない。  
流通するあらゆる表現、消費されるすべての  
形式に我々は拒絶されている。

# R